地域づくりは面白い。地域を学び、地域で遊ぶためのヒューマンネットワークマガジン

かがり火

旅に出るなら、
「かがり火」を忘れずに
持っていきなさい。
生涯忘れられない、
すばらしい人たちとの
出会いが待っている。
“人生は楽しき集い”

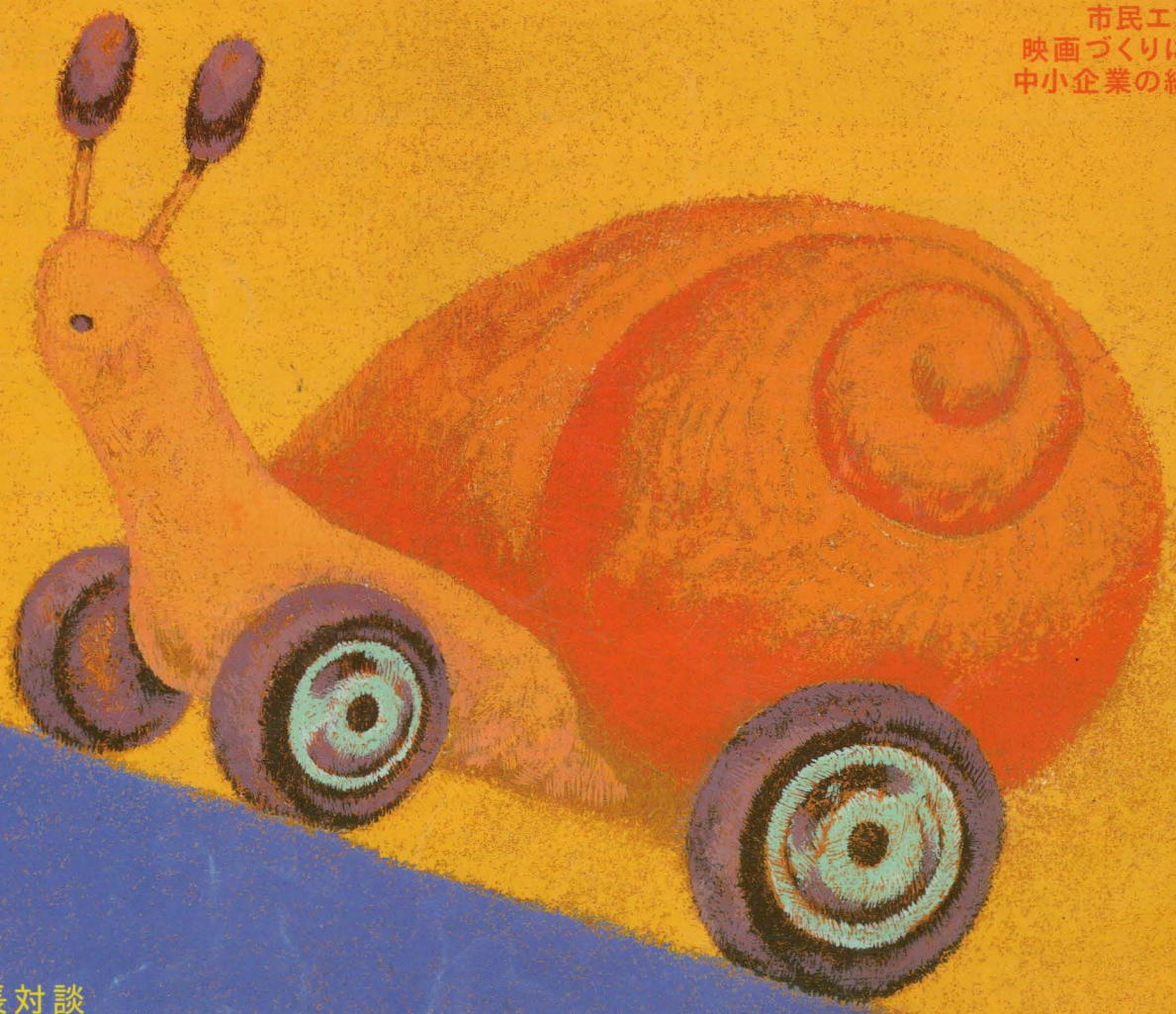
76 2000 May

「まずは、市町村合併の議論を
巻き起こしてほしい」
自治省・市町村合併推進室 田中昇治さん

評論家・神一行氏の提言
「そろそろキャリア制度は
全廃にしたほうがいい」

視察に行くなら新潟県黒川村だ!

市民エンジェルで
映画づくりにガンバル
中小企業の経営者たち



編集長対談
「今こそ農業の原点を見据えながら
町づくりを進めたい」 青森県田子町 町長 中村隆一さん

著者インタビュー
「ヨメより先に牛がきた」 岩手県 東和町 役重 真喜子さん

フリーライターという仕事にあこがれなんて持つものではない。とにかく、楽な商売ではない。わずかなコネや売り込みに頼って、細々、コツコツやっている人がほとんどだ。安い原稿料で書かされ、出版物の片隅に小さく名前が載るだけ。ほんの一部の人以外、スポットライトを浴びることもない。おまけに、東京にいない限り、まず商売にならない。カタカナ文字とは裏腹に、とても大変で地味な仕事なのである。

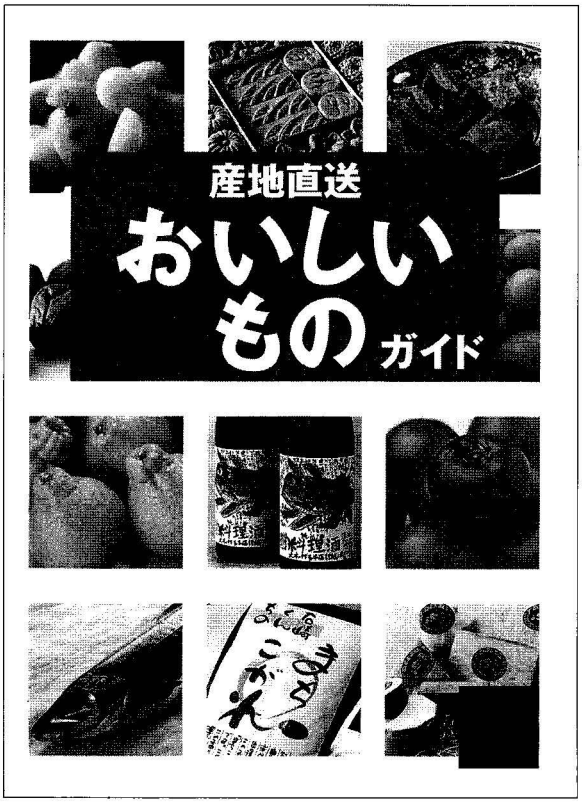
金丸弘美さんは、そんなフリーライターたちの味方である。自身もフリーのライターであり、編集者であり、プランナーである金丸さんは、1993年、ライターズネットワークを立ち上げた。所属するライターのプロフィルや得意分野を名簿としてネット上で、さらには刊行物として公開し、書き手を探す編集者との接点をつくり上げようというものだ。会員は現在200人。約7割は東京かその周辺の在住者だが、地方や海外にも会員の裾野は広がっている。

「編集者は良いライターを探しているけれど、口コミしか頼るものがない。一方、ライターはどうやって売り込んだらいいか分からない。行き違っているんです。お互いの行き合える場をつくりたかったんです」

毎月、出版業界の現場で光を放っている人を講師に迎え、勉強会も開催する。そこでは、著作権の基礎知識、出版流通の仕組み、カメラ術、装丁のこと、出版社のつくり方、出版社の営業戦略など、出版にまつわるさまざまなことを学び合う。

「この勉強会はコネづくりの場でもあるんです。売れている出版物の編集長や営業マンと接点を保ち、私たちの総合力を売り込んで大き

フリーライターは一つの得意ジャンルを持てれば、そこを切り口に仕事の幅が広がる。金丸さんは、"安全な食べ物"が、得意な分野。



フリーライターと編集者をつなぐネットワークづくりでガンバル

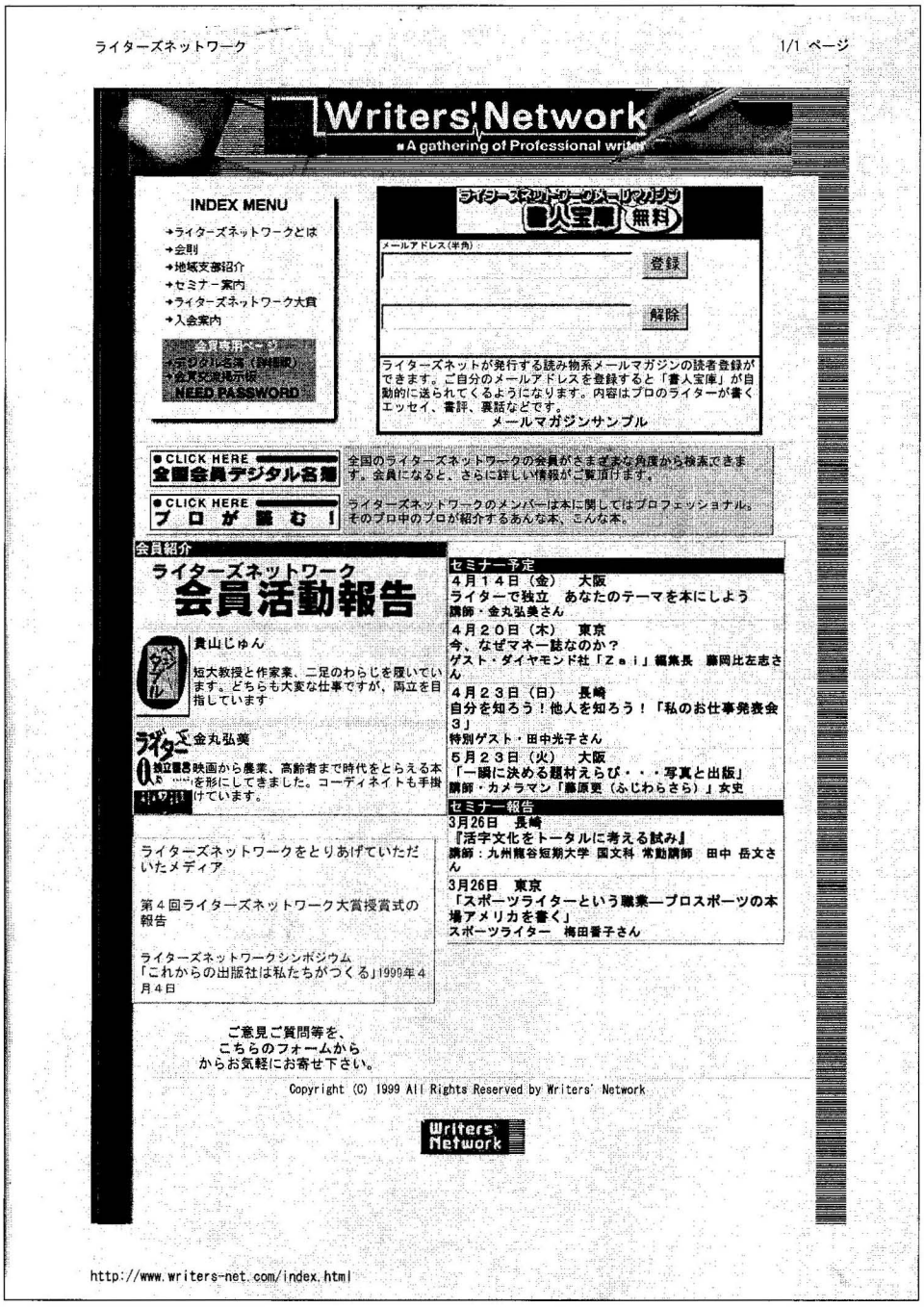
●東京都世田谷区／ライターズネットワーク主宰

金丸弘美さん

かなまる ひろみ（47歳）
昭和27年、佐賀県唐津市生まれ。
〒157-0073　東京都世田谷区砧4-4-3
砧ロイヤルハイツ205
☎03・3415・4995 FAX 03・3415・2259

フリーライターも地域づくり人も基本は同じ。要はマーケティング力、企画力、編集力だ！

「カガリ火」2000年5月



大手出版社も、新しい媒体を発行するとき、このネットワークを活用して人材を発掘している。

な仕事をとる。いま、どんなテーマの出版物が売れているか、あるいは売れそうなのか、一部の講師への依頼はそのリサーチの結果でもあるのです」

いま、雑誌は４０００種類近く、単行本は年に６万点以上発行されている。書くための底辺はものすごく広い。作家というブランドは必要ない。だが、読者の皆さんもご存じのように、方向性の定まらない文章や編集は相も変わらず多い。何が足りないのか。

「まずライターでいうと、昔だったら文章力というもので事足りました。でも、いまは違う。方向さえしっかりしていれば、文章なんか編集サイドで直せます。それより大切なのは、マーケティング力、企画力、編集力の３点。読者に何を投げ掛けるか的確につかめないライターは使えません。そして出版社。上層部が若い人との接触が少ないから、新しい発想がなかなか出てこない。いまの時代は活字離れなんてものじゃなくて、初めから活字になんか親しんでいません。活字に戻そうなどというのは無理です。新しい発想で、携帯電話やパソコンにどう勝つか。ただそれだけです」

まさに、そのまま地域づくりにも当てはまりそうではないか。若者の意見など聞く耳を持たないお偉方が、マーケティング力や企画力を磨こうともせずに、旧態依然の地域づくり手法にしがみついている。そんな地域がいかに多いことか。このままでは、売れない出版社と同じ運命をたどってしまう。

金丸さんのネットワークづくりは、フリーライターにとどまらず、全国の「食のネットワークづくり」にも広がっている。自身のお姉さんの子どものアトピーをきっかけに書いた『アトピーに克つネットワーク』（廣済堂出版）がその始まりだ。アトピーにかかわると、どうしても、農薬などを排除した安全な食べ物に行き着かざるを得ない。５年間で１００カ所以上の地域を回り、その結果が、『おいしくて安全な食べ物ガイド』（廣済堂出版）、『産地直送おいしいものガイド』（講談社）といった安全食ガイドの発行につながった。

「確信が持てたもので、自分がいいと思えるものを本などのメディアを通して表現したいんです。だれもが自分の中にさまざまな側面を持っていて、表現もいろいろだから、ライターズネットワークも、自分で書く本も、プロデュースする本も、ジャンルにはこだわりません。それより、日本というものを多面的に追ってみたいし、常に違った角度や視点を忘れずに活動していきたいですね」

ネットワークづくりで具体的な結果を出すのは骨が折れる。だが、金丸さんは疲れない。何よりネットワークづくりが好きだし、自分の幅を広げることにも直結するからだという。